ところがあります。また舘のあった下を舘下、近くの沢を舘沢とよんでいます。

《第二十五話》

## 厄　病　神（大川原）

むかし。

大川原には毎年厄病（腸チフス）がはやりました。祈祷をしても、神仏にお願いしてもさっぱり効果がありません。

部落の人々は「厄病神はエザリ（歩けない）だからどこにも行けないのだ。」と話しあいました。これを聞いた若者三人はある夜、患者の家を訪れました。病人は高い熱でウンウンうなっていました。若者はいいました。「いい所につれてゆくかんな。」と。患者は「ウン。」と答ました。若者は背をむけて、おぶうしぐさをしました。他の二人はごちそうを持っています。オゼンとハシも持ちました。道平を通り北に向いました。余り時間をかけると厄病神が目をさまします。年貢道路の十文字がよかろうと厄病神をおろすしぐさをしました。オゼンの上にごちそうを並べ